

令和7年7月14日
午後6時30分～

令和7年度第1回世田谷区認知症施策評価委員会 次第

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

(1) 第2期世田谷区認知症とともに生きる希望計画に基づく取組みについて

(2) 委員等による事例紹介及び意見交換について

4 今後のスケジュール

◆11月～12月 第2回世田谷区認知症施策評価委員会

5 閉 会

配付資料

資料1 世田谷区認知症施策評価委員会 委員・パートナー名簿

資料2 第2期世田谷区認知症とともに生きる希望計画に基づく取組みについて

資料3 委員等による事例紹介及び意見交換について

世田谷区認知症施策評価委員会名簿（令和6年10月1日～令和8年9月30日）

	区分	氏名	職（所属）等
1	本人	貫 田 直 義	テレビ東京アメリカ元社長、 元テレビ東京プロデューサー
2	本人	丹 野 玲 子	元介護職
3	学識経験者	大 熊 由 紀 子	国際医療福祉大学大学院教授
4	学識経験者	村 中 峯 子	神奈川工科大学健康医療科学部看護学科 特命教授
5	学識経験者	田 中 富 美 子	弁護士、世田谷区社会福祉協議会成年後見センター 事例検討委員会副委員長
6	学識経験者	永 田 久 美 子	認知症介護研究・研修東京センター副センター長 （研究部部长）
7	学識経験者	西 田 淳 志	（公財）東京都医学総合研究所社会健康医学研究センター長
8	専門医	大 島 健 一	都立松沢病院認知症疾患医療センター長
9	専門医	長 谷 川 幹	世田谷公園前クリニック名誉院長
10	地区医師会	太 田 雅 也	（社）世田谷区医師会副会長
11	地区医師会	山 口 潔	（社）玉川医師会理事
12	地区歯科医師会	村 上 直 弘	（公社）世田谷区歯科医師会担当理事
13	地区歯科医師会	栗 屋 剛	（公社）玉川歯科医師会担当理事
14	地区薬剤師会	佐 伯 孝 英	（社）世田谷薬剤師会監事
15	地区薬剤師会	橋 元 晶 子	（社）玉川砧薬剤師会理事
16	地域団体	小 池 宗 和	世田谷区民生委員児童委員協議会副会長
17	地域団体	高 橋 和 夫	世田谷区町会総連合会副会長
18	地域団体	小 塚 千 枝 子	世田谷区商店街連合会女性部相談役
19	地域団体	高 橋 聰 子	在宅介護家族の会「フェロー会」代表
20	地域団体	中 澤 ま ゆ み	認知症カフェ多職種ケアネットワーク 「せたカフェ」代表、福祉ジャーナリスト
21	地域団体	岡 崎 克 美	世田谷区社会福祉協議会副会長
22	介護保険事業者等	徳 永 宣 行	世田谷区介護サービスネットワーク代表
23	介護保険事業者等	相 川 し の ぶ	世田谷区ケアマネジャー連絡会会長
24	介護保険事業者等	氏 家 雅 史	経堂あんしんすこやかセンター
25	介護保険事業者等	佐々木 由実	九品仏あんしんすこやかセンター
26	介護保険事業者等	遠 矢 純 一 郎	世田谷区認知症在宅生活サポートセンター代表
27	学生	浪井 百合香	昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科
28	学生	庄司 のどか	昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科

世田谷区認知症施策評価委員会パートナー名簿（令和６年１０月１日～令和８年９月３０日）

	氏名	職（所属）等
1	貫 田 弥 生 友 子	貫田直義委員パートナー
2	中 田 成 子 土 屋 明 之	丹野玲子委員パートナー

第2期世田谷区認知症とともに生きる 希望計画に基づく取組みについて

第2期世田谷区認知症とともに生きる希望計画は
世田谷区ホームページからご覧いただけます

詳しくはこちらをクリック
(世田谷区ホームページ)



1

第2期世田谷区認知症とともに生きる希望計画の概要

第2期世田谷区認知症とともに生きる希望計画について

● 計画の目的

世田谷区認知症とともに生きる希望条例に掲げる「一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまち、せたがや」の実現を目指し、区としての中長期の構想のもと、認知症施策を総合的に推進すること。

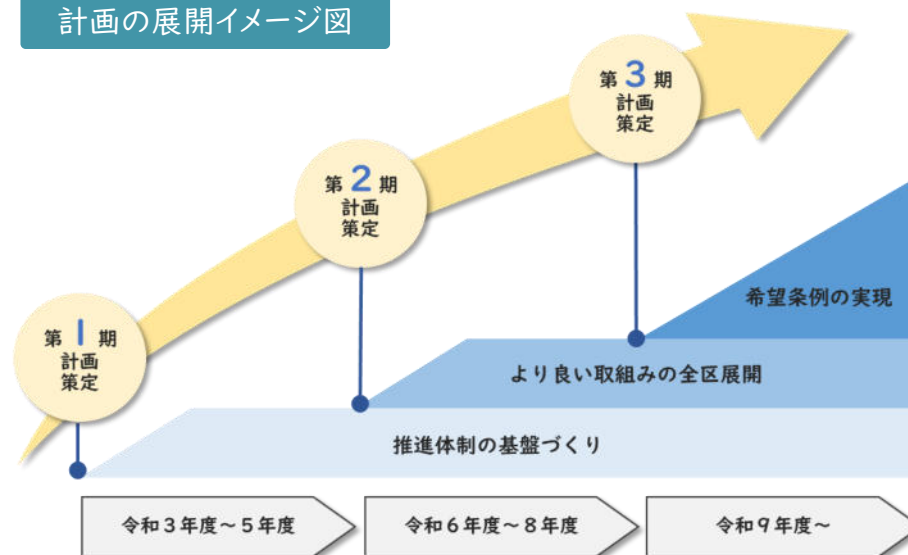
● 計画の期間

- ・令和6年度（2024年度）から令和8年度（2026年度）までの3年間。
- ・第1期計画の内容を引き継ぎながら、より良い取組みを全区的に広げていく。

● 第2期計画において目指す将来像

条例の基本理念が広く浸透し、地区のアクションが全区で展開するとともに、認知症の本人が自らの思いを発信・社会参画しながら、地域でともに希望を持って暮らせるまち

計画の展開イメージ図



第2期計画の成果指標

第2期計画より抜粋

目標値
(R8年度末)

現状値

1

条例に掲げる新しい認知症の
イメージを持っている人を増やす

51.4%

22.8% ※1

2

認知症になってからも希望を
持って暮らせると思う人を増やす

35.4%

15.5% ※1

3

本人が参画するアクションチームを
全28地区に増やす

全28地区

26地区 ※2

※1 世田谷区民意識調査2024(令和6年5月実施)

※2 令和7年3月時点

推進体制

- 区と認知症在宅生活サポートセンターを共同事務局として、各取組みを推進する。
- 重点的な検討項目（8ページ参照）は、区と認知症在宅生活サポートセンターを事務局とした「テーマ別ミーティング」を必要に応じて開催し、多様な関係者との連携・協働により検討し、取組みを推進する。

第2期計画の進捗管理・評価・改善

進捗管理・評価

- ・ 2期計画の成果指標と行動量や重点的な検討項目に関する取組みの進捗状況を管理するとともに、目指す成果に対する取組みの有効性を評価する。
- ・ 進捗状況や評価の内容は、認知症施策評価委員会に報告する。

改善

評価及び認知症施策評価委員会での議論等を踏まえ、明らかになった課題を解決するための対策を検討し、取組みを改善する。

2

令和7年度における認知症施策の主な取組み

令和7年度の取組みの全体像（主な取組み）

区と認知症在宅生活サポートセンターを中心に
様々な取組みを**連動**させながら、認知症施策を**総合的に推進**



本人向け

- 認知症初期集中支援チーム事業
- もの忘れチェック相談会
- 医師による認知症専門相談事業
- 認知症本人交流会
- 認知症バリアフリーの推進
- 社会参加プログラム事業



家族向け

- 介護者向けのストレスケア講座
- 家族のための心理相談
- 家族会・介護者の会の開催及び運営支援
- 家族会交流会



区民向け (本人・家族含む)

- もの忘れ相談窓口（あんしんすこやかセンター）
- アクション講座
(世田谷版認知症サポーター養成講座)
- アクションチームの活動支援
- セーフティーネットの充実
- 各種講演会
- 認知症あんしんガイドブックの配布
- 区報・ホームページ・SNS等での周知



関係機関向け

- 医療機関との診断後支援の連携強化
- 日本版BPSDケアプログラム
- 専門職向け研修
(世田谷区福祉人材育成・研修センター)
- あんしんすこやかセンター職員研修
- インフォーマルサービス情報誌の発行

第2期計画における行動目標（令和7年度）

第2期計画より抜粋

第2期計画において、以下の8つの行動の目標を設定

		【令和6年度】 実績値（目標値）	【令和7年度】 目標値
1	アクション講座（世田谷版認知症サポーター養成講座）の受講人数	3,001人（3,180人）	3,360人
2	教育分野（小中学校等）でのアクション講座の実施回数	22回（21回）	27回
3	本人交流会やアクション講座、会議等に本人が参画した回数	36回（22回）	増加
4	地域づくりの推進役の育成人数 ※地域づくりの推進役＝アクション講座実施者・地域支援推進員	51名（28名）	各あんすこ 1名以上
5	ケアマネジャー等専門職への研修	充実（充実）	充実
6	認知症サポート医等医療機関と連携した対応	検討・実施（検討・実施）	充実
7	介護予防講座の受講人数 ※介護予防筋力アップ教室、楽しくはじめるフレイル予防講座（旧まると介護予防講座）等	496人（485人）	増加
8	認知症バリアフリーについて検討する機会	検討・取組みの一部実施 （検討）	実施

■ 令和7年度重点的な検討項目（テーマ別ミーティング）

以下の「令和7年度重点的な検討項目」について、区と認知症在宅生活サポートセンターを事務局とした「テーマ別ミーティング」を開催し、**本人参画**を基本として、多様な関係者との連携・協働により取組みを推進する。

【令和7年度重点的な検討項目】 ※テーマは令和6年度から継続

第2期計画の推進に向けて、区、認知症在宅生活サポートセンター、医療・介護、認知症の本人・パートナーなど多様な関係者で重点的に検討が必要となる以下の5つを項目として掲げている。

01

認知症月間
イベント

02

情報収集・
発信の強化

03

医療・介護
あんしんすこやか
センター連携強化

04

私の希望
ファイル

05

アクション
チーム

■ 各テーマ別ミーティングの取組み①

1 認知症月間イベントミーティング

令和6年度の課題

- 「本人発信・社会参加の推進」につながる企画を一層検討するとともに、参加者のニーズに合った講演内容や参加者の生活に役立つコーナーの検討なども行う。
- 条例施行5周年にふさわしいイベントを検討し、条例の理念の普及や区民の認知症観の転換を図る機会とする。

令和7年度の取組み

- 9月20日（土）に保健医療福祉総合プラザにて、「希望条例施行5周年・令和7年度認知症月間イベント」を開催する。
- 今年度のテーマは、「知って 触れて 感じて～認知症ってなんだろう？～」
- イベント第1部では、認知症の本人数名が登壇する講演会、第2部は希望条例施行後の想いをテーマにした本人と認サポ職員によるトークセッションや認知症本人交流会の参加者が企画した認知症カフェなどを予定。

2 情報収集・発信の強化ミーティング

令和6年度の課題

- 認知症観の転換を推進するためには区報等の多くの区民が目にする媒体を活用した情報発信を継続していく必要がある。
- 認サポセンターホームページの認知度向上に取り組む必要がある。また、情報量の増加に伴い、区民等がより見やすく、利用しやすいレイアウト等を検討する必要がある。

令和7年度の取組み

- 区のおしらせ8/15号（裏表紙全体）での本人の声をテーマにした情報発信、また、デジタルサイネージ（電子掲示板）などの新しい媒体による情報発信を行う。
- 認サポセンターHPの充実（生活の知恵やアイデア、各地区のアクションチーム情報の掲載など）

■ 各テーマ別ミーティングの取組み②

3 医療・介護・あんしんすこやかセンターの連携強化ミーティング

令和6年度の課題

- 医療機関・介護・あんしんすこやかセンターの現状を踏まえ、多様な関係機関と連携・協働し、課題の解決に取り組む必要がある。

令和7年度の取組み

- 両医師会との意見交換会を2回実施。認知症の早期発見・早期対応及び診断後支援の推進に向け医師会と連携し段階的に進める。
- 認知症と診断された本人、その家族を着実にあんすこへつなぎ、社会参加の促進を含め適切な支援を受けられる体制を築くため、あんすこと医療機関等との連携を強化する。

NEW (仮称) あたまの健康度測定会

- 認知症月間イベント等で、認知機能を気軽にチェックすることができるツールを活用し、あたまの健康度をチェックしてもらう。
- 認知症観の転換に資する周知・啓発を併せて行う。

NEW 若年性認知症に対する相談支援体制の強化に向けて

- 若年性認知症は、働く世代も多く、本人や家族にとって課題が多岐に渡るため、個々のケースに応じた支援が必要である。
- 相談支援体制の強化に向けて、認知症在宅生活サポートセンターの機能強化などの検討を進めている。

4 「私の希望ファイル」ミーティング

令和6年度の課題

- 本人が希望を表出するため仕組みづくりに向けた1回目の試行結果をもとに、本人が安心して希望を表出するための改善点や新たなアプローチ等を検討する必要がある。
- 本人が安心して希望を表出できる場の充実に取り組む必要がある。

令和7年度の取組み

- 本人参画による検討会を開催(令和7年6月)
- アクションチームや認知症カフェなどで、本人がツールを使って希望を表出し、希望の実現に向けて参加者で話し合う試行を行う。進め方やツール等の検証を行い、仕組みの検討を進める。

■ 各テーマ別ミーティングの取組み③

5 アクションチームミーティング

令和6年度の課題

- 認知症であってもなくても支え合いながら安心して暮らせるまちを築くため、アクションチームの情報をより多くの区民等に伝え、取組みの輪を広げていく。
- アクションチームの結成や、結成後の持続可能な活動に向けた支援策を検討し、アクションチームの取組みを発展させていく。

令和7年度の取組み

- 各アクションチームの取組み情報を調査・整理し、認知症月間イベントのコーナーにわかりやすく展示するとともに、区民配付用の資料を作成する。
- 認サポによる各アクションチームへの巡回強化で、支援を強化するとともに、共通する課題を盛り込んだ研修会を開催し、アクションチーム全体の活性化を図る。

NEW

アクションチーム応援キャンペーン

目的

- アクションチームの活性化
- 認知症観の転換の推進
- アクションチームの認知度向上

概要

- アクションチームの活性化に向けて、区民参加型イベント(※)を実施した各地区のアクションチームのメンバーに「せたがやPayポイント」を配布する。
(※)一般区民も参加できる認知症観の転換に資するイベント。
- 1イベント参加につき、1人500ポイントを配付。

委員等による事例紹介及び意見交換について

1. 主旨

認知症施策評価委員会委員やパートナーにより、それぞれの立場から認知症に関する事例を紹介してもらい、その事例をもとに、委員間で意見交換を行うことで、認知症に関する経験や課題の共有を図り、今後の認知症施策に活かすことを目的に実施する。

2. 事例紹介者

1	認知症施策評価委員会 丹野 玲子 委員
2	認知症在宅生活サポートセンター 管理者 永野 富美子
3	認知症施策評価委員会 中澤 まゆみ 委員